

明るく房後

房後連絡協議会 編集
平成十七年四月二十八日発行
第二 百 二 十 号

新年度房後連絡協議会総会

今月一六日夜開催

四月の新しい年度を迎え、規約により房後連絡協議会の総会が十六日土曜日の夜間かれました。今年も新役員が出席されたので総勢二十三名でした。会議は、表の会西原昌利さんの議長のもとに審議されました。昨年度の事業報告と決算（左下にその概略を記載）、本年度の事業と予算がそれぞれ提案とおり決定いたしました。規約改正の案も提案されましたが、今後各行政区や各団体において充分討議して、次の会あたりで協議決定することになりました。（主なる協議事項は左下に記載。）役員も一挙改選がありました。理事については決子に掲載しますが、三役として会長角保雅史、副会長桑岡明、上安多美子、事務局田中要の皆さんが承認されました。

昨年度房後連絡協議会収支決算書

※ 大体の様子をお知らせするので、細かい数字は省いてあります。正確な金額は各役員さんの手元にあります。

収入の部

前年度繰越金	三万八千五百円
市からの助成金	一万九千円
イベント助成金	六万六千円
寄付金（御花）	二万二千元
駅伝負担金	二万九千九百円
合計	九万七千七百元

支出の部

納涼祭	二万四千二百円
収穫祭（前年度も含む）	一萬八千六百元
駅伝関係（前年度も含む）	一六万五千元
たかみや祭	五万円
秋祭り	五万三千円
会議費（前年度も含む）	一萬七千七百円
その他	一萬五千元
差し引き次年度繰越金	三万七千七百円

常会や団体で協議してもらいたいこと

① 房後連絡協議会に部を設置する。

総務部、文化部、体育部、厚生部、営農部の五部を設置し、部員は房後住民で構成し部長、副部長は部員の互選による。

活動の内容として、例えば、営農部の活動では、房後の農地を守るための取り組みや、房後の特産物がみんなで作れないか、というようなことが考えられる。

② 房後連絡協議会の活動経費は、規約によって助成金、寄付金その他でまかなってきたいが、自主的な振興会活動を展開するために、やはり各戸当たり幾らかの会費を拠出すべきではないか。

他の多くの振興会では会費を取っている。それでさしあたって「一戸当たり二千円の会費」としたい。なお、これが承認されたら、毎年末に出していた駅伝大会の費用「各戸千五百円」の負担金は廃止する。

房後老人会会長交代

今月四日房後ふれあいセンターで開かれた老人会総会で、田中力会長が強く辞意を表されたので、高下二郎さんが新しく会長を引き受けられることになりました。

田中さんは平成三年に森増寛さんの後を受けて会長に就任、十数年にわたって房後老人会の世話をしてくれましたが、その間に高宮町老連の会長、さらには高田郡老連の会長としても活躍されました。長い間のご苦労に感謝いたします。なお、副会長の吉中計さん、会計の山下美佐登さんは引き続きお世話頂くことになっています。

明泉寺法座予定

六月五日（日）ご羅生法座
六月一八日（土）老人会通弔法座

勘部 谷口章

お詫びと訂正

前号の文化祭出品者のうち、上田敏子さんのお名前が載っていませんでした。また協力委員の高下晴人さんを、春人と間違えて書いておりました。いずれも編集者の誤りで、お詫びと訂正を申し上げます。

日刺野村の鳥居落成

今月一〇日花見を兼ねて鳥居の落成神事をしたことが中国新聞に写真入りで掲載されました。新聞で読んで見た人が「案内小さいのー」と言っていたとか。でも軽自動車ならこの鳥居を潜って宮まで上がれます。

鯉のぼり三〇匹

こどもの日を前に今年も麦の会が水神平に鯉のぼりを掲げられました。房後川の上を春の風に乗って悠々と泳いでいます。

房後風土記

房後の櫻

今年のサクラの季節も終わりました。房後では四月十日の日曜ごろからチラホラ咲きだし、よい天気が続いたので二、三日で満開となり、次の日曜の十七日には散り始め、二、三日で花弁は落ち、赤みをおびた萼が残っていました。数日経つと緑の若葉に替わりました。近年、房後でも櫻が多く見られるようになりました。たいいていの家に一本や二本は植えてあります。それも畑や田の近くに植えられた櫻は特に成長が早く、横原年明さんと、森川栄治さん宅の櫻は根回りで二メートル近くの大きさです。いずれも戦後、それも今から二五年ぐらい前に植樹したものだそうです。これらの櫻は多くがソメイヨシノですが、この櫻の寿命は人間と同じぐらいだということですから、この二本は樹齢三十年ぐらいなので、今が盛りの青年期（木？）です。

さて、今年も終戦後六十年で還暦の年。戦前から咲いている櫻はないか、聞いて回ったところ、中村（酒田）の庭にありました。樹齢は百年以上とのことです。胸の高さで幹の囲りが一・二メートルとそんなに大きくはありませんが、幹に空洞も出ていて見るからに老木という感じがします。斜めに伸びた幹が、納屋の屋根に支えられていて、地上五メートルの屋根上で枝分かれしています。淡紅色の華麗なサクラが瓦の上に咲いていました。櫻も沢山あれば訴える力も強い。房後川の辺では水神平、吉貞の沖（これはかなり大きい）と合流点の三カ所、それに房後ふれあいセンター。明泉寺、日刺山公園の櫻群もすくすく成長しています。十年後が楽しみです。